

2-1-1 教員の学位や業績

【経済経営学部】

| | | |
|----------------|--------------|--|
| 現代 経営 学科 | 名前(読み) | 范一楠 (はんいちなん) |
| | 職名 | 講師、副学科長 |
| | 取得学位 | 博士 (人間文化学) |
| | 専門分野 研究領域 | 第二言語習得、日本語学 |
| | 担当授業 | IPUジェネリックスキルズ、日本語用言、異文化コミュニケーション、ゼミナール |
| | 研究業績 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤亜希・于泉華・老平実加・大西薫・郭侃亮・韓舒玥・小谷沙緒里・田淵美有・張莎・陳怡卉・鄭立民・長野真澄・范一楠・平川真・古本裕美 (2011) 「母語が異なる他者との協調学習における理解深化過程の分析」 『広島大学日本語教育研究』 21, pp. 47-54. 2. 范一楠 (2015) 「雑談における中国語母語JFL上級学習者と日本語母語話者のノダの使用の相違点—発話機能と文の繋がりの方角の観点から—」 『人間文化 H. S.』 37, pp. 37-44. 3. 范一楠 (2016a) 「情報獲得の際の「そうですか。」と「そうなんですか。」」 『日本語プロフィシエンシー研究』 4, pp. 41-61. 4. 范一楠 (2016b) 「横断発話コーパスから見る日本語学習者のノダの習得—使用形式と文の繋がりの方角の観点からの分析—」 『人間文化 H. S.』 39, pp. 13-19. 5. 范一楠 (2016c) 野田春美編『日本語のモダリティのコーパス調査報告—『現代日本語文法』の記述の検証—』 執筆部分：pp. 9-10, 45-49, 112-116, 120-123, 128-130, 150-153. 6. 范一楠 (2021) 「調査発表型オンライン日本語授業におけるグループ作業と個人作業の比較—課題遂行利便性と学習効果の学生自己評価結果から—」 『環太平洋大学研究紀要』 18, pp. 163-168. 7. 呂建輝・范一楠・山本純子 (2022) 「環太平洋大学ニュージーランド校における日本語語彙学習ツールVocabulary Battlersの実践」 『岡大文論稿』 50, pp. 228-215. 8. Yamamoto, J., LU, Jianhui., FAN, Yanan (2022) Trends in the vocabulary improvement among New Zealand nationals studying Japanese Language: An approach based on the outputs in the upper-intermediate vocabulary with VB practice during the COVID-19 pandemic, <i>The Journal of The Japan Society for New Zealand Studies</i>, 29, 3-15. 9. 范一楠 (2022) 鎌田修編『日本語プロフィシエンシー研究の広がり』 「雑談における日本語母語話者と中国語母語学習者のノダの使用状況」 (発行予定) |
| | 所属学会 学会活動 | 日本語教育学会、日本語文法学会、社会言語科学会、日本語プロフィシエンシー研究学会 |
| | 社会貢献 | <p>2018年12月 スピーチコンテスト運営</p> <p>2019年 11月 第12回OPI国際シンポジウム運営 (大連外国語大学にて)</p> <p>2021年6月日本語プロフィシエンシー研究学会10周年記念シンポジウム運営</p> |